日本大學
農獣醫學部
校友會々報

発行所
日本大学農獣医学部
校友会
編集発行者
会報発行委員会
印刷所
東京商工KK

総会 懇親会のお知らせ

日本大学農獣医学部校友会昭和四十年度総会並に懇親会を左記の通り行いますから御多忙中とは存じますが御参集下さるよう御願いします。

記

総会

一、日時　昭和四十年七月二十一日（水）午後五時半より
一、場所　渋谷「東急会館ゴールデンホール」
一、議題　予決算の件、理事、監事改選の件、その他

懇親会

一、日時　昭和四十年七月二十一日（水）午後六時半より八時半まで
一、場所　渋谷「東急会館ゴールデンホール」
一、会費　金壱千円也

昭和四十年七月五日

日本大学農獣学部校友会々長
工藤正城

会員各位

拓友会

拓友会の近況を報告致します。

始めに特記すべき事は、三月二十五日に凱旋の日大講堂に於きまして、新設拓植学科第一回卒業生を送り出し、久しく後続校友の居なかった拓友会も、空白十五年目にして嬉く新しい校友を迎えました事は、誠に御同慶の至りであります。

拓友会と致しまして、卒業記念品（朱塗木盃を贈呈し、卒業生一同の前途を祝福致しました。

次に去る五月二十二日午後三時より、大学本部四階会議室にて、昭和四十年度拓友会総会を開催しました。

議題は、役員改選と会則常議であるが、本年度より代議員制度を設け、その代議員中より理事を選出して、拓友会の充実強化を計る事になった。役員改選の件は、会長、副会長は留任決定、更に副会長一名の追加承認を得、来る七月十一日の代議員会に於いて副会長、理事を選出決定する運びである。

次いで、午後六時よりホテルオータニに於いて懇親会を開催し、会長　工藤正城（留任）

副会長　北川　休（留任）
〃　庄川洋一（留任）
〃　岡田正男（留任）

尚、十数年間に亘って、拓友会の事務局長として活躍された安保氏が、校友会本部其の他事務多忙の為辞任され、隠岐氏が引継ました。拓友会として工藤会長と安保前事務局長に長年拓友会に貢献された功績に対して、感謝状と記念品を贈る事を決定した。

以上の議事其の他を滞りなく終了した。

次いで、午後六時よりホテルオータニに於いて懇親会を開催し、来賓として小松雄道先生、石渡恪郎先生。農獣医学部長大森智堀先生、磯辺秀俊拓植学科主任教授各位の御来席を得盛況裡に会を閉じました。

次、入学に関しましては本年度は学科開設以来、稀有の志願者を得まして、一年次入学合格者二〇三名に及び、拓植学科のみ教養一年間を藤沢六会校舎で授業を行って居ります。

林学科分会

先日、東急ゴールデン、ホールにて非常勤講師の先生方をお招きして、新しい林学教育についての御意見をきく会を持おました。

御出席の先生方は、川村実平、明永久次郎、太田勇次郎、杉浦庸一、土屋禎夫、島崎進一先生。常勤の側では栗田　勲、蓑田　茂斉藤美鶴、中村忠雄、現校四教授佐々木憲雄、片岡竜祠、岡藤師、塩沢南海治副手と私の十四名。

いろいろな事情のために出席出来なかった先生方は、三浦伊八郎石田伸亜、荻原貞夫、中島卯三郎中村賢太郎の諸先生です。こういろ名前をつらねる校友諸賢の頭の中には日大林学科の過去と現在と未来を大観することが出来ることと思います。

倉田先生亡くなられてすでに三年、鈴木太七先生が名古屋大学に移られてから、はや一年、月日のたつのが早いのには今更ながら驚かざるを得ません。六会時代の思い出の中にある、鈴木弘（北海道帯川）村山茂明（高知大林学）伊藤進（名古屋大林学）の三先生もおのおのの所を得て活躍しておられますが、会った人の話によると大分お年をとられた様子、もっともあれから十五年ですからね。いくらたっても年をとらずお若々しいのはまあ私くらいのものかも知れません。

さて、学生の方をみると、今年度の卒業生四十一名中、国家公務員上級試験合格者一名、地方公務員試験合格者五名、森林開発公団二名、東大演習林二名、進学者二名、各種農林会社二十五名、自営その他、という割合です。これをみても現在の林学科の内容がいかに充実してきたかがわかるでしょう。

現在、四年生五十名、二年生四十一名、二年生三十五名、新入生を合せて約二百名位の在籍者です。

校友の数も約六百名、連絡先不明のものもあるので連絡をしても返事がくるのは一百名足らず。しかし、この二百通の中には、仲々感心な方もあって、「どうか林学科のためにお使い下さい」といって相当な寄付金を送って下さる方もあるようになりました。

いや、私は決してみなさんに寄付金を送って下さいといっているのではありません。つまり、こういうことは卒業生諸賢の生活が安定し、充実した証拠であるということを申し上げたいのでありますから誤解のなきように。

それでは校友諸賢の御健康を祈り、また、奥さんの上に、子供さんの上に豊なる祝福あれと祈ります。

（加藤記）

各科校友会の動き

三号館新館の完成に伴い農芸化学科は本館二階の土壌、植物栄養研究室が三号館に移転した。その結果旧三号館の一階全部に農芸化学科の研究室が集ることになった。さらに新設の醗酵化学研究室（室岡教授）は三号館新館一階に設置された。また食品栄養化学、農産利用学研究室は四月より食品化学、栄養生理化学とそれぞれ名称変更した。また新たに徳山竜明（三十八年卒）中島勝安（三十九年卒）の両名が副手に採用された。

農芸化学科のこの三月の卒業生は約百十名である。内、総長賞（金崎忠）優等生十名であった。就職は自営、進学を除き全員決定した。

特筆の第三期増築工事、即ち三号新館が落成しました。地上四階、地下二階総建坪一九坪が見られる。

三号新館の前に地上一階、地下一階総建坪一九坪の家畜病院が新築され、その施設は特に東洋一と申しても過言でない立派なものです。

一階には広いロビーと医局、薬局、予診室、内科診療室、病院長室等主として内科学関係の教室（桑原教授担当）。地階には外科手術レントゲン室並びに入院用動物舎等が設けられ、学生の実習にも供されるよう可成のスペースが取られております。特筆すべきは患畜を診療室から手術室又は入院舎舎に運ぶ際には患畜専用のエレベーターが施設されていることです。

そしてこの一階には主として臨床関係の各研究室が近代的な姿で出来上りました。即ち獣医学研究所（小畑教授田中（五）顧問教授）

この三月に完成し、本学部の偉容をいやが上にも増しました。

この四月には第三回日本獣医学会の会場となり参集した会員諸

会員の皆様お元気ですか？　諸さ

学科の中に農業工学専修課程がおかれたのが、昭和三四年度からでしたが、その最後の課程が、すなわち第三回生が今春三月巣立って行きました。（幹事は小見山堅八郎、小滝仲一両君の二名です）総勢五八名です。そして農業工学科へとバトンが、受け継がれました。農業工学科第一回生も今春四月には四年次へと進級して全学年が揃って参りました。念願の校舎増築工事もほとんど終了して農業工学科は教授研究室三室、中央研究室二室、実験室および実習室、製図室等が完備されて、また室内の実験実習器具機械も徐々に整備されております。他方教授陣容についても、権平昌司教授を主任に大校舎費教授、鶴谷卓三教授、白岩隆二専任講師、辻厚志助手がそれぞれ後進の育成に当って居ります。このほか非常勤ならエネルギッシューな活動をしておられる山田伊次郎先生が一枚加わって、日増しに力強く前進を続けております。就中、鶴谷教授は防衛庁技術研究本部に勤務されておりましたが、今春四月農業機械学担当教授としてお迎え致し、また助手は御承知の通り農業工学専修第一回卒業生で、今後が期待されます。

昭和三九年度総会および懇親会は、例年の通り十一月三日に行いました。恒例の大学祭農獣医学部祭の期間中最後の日で、文化の日でもあり、学内には数多くの先輩連が御家族と共に来校されておりました。農業工学研究部におきましては、農業土木部門と農業機械部門とに二大別され、農業土木部門では主として潅漑計画についての一連のパノラマ展示がなされ、模型ダムの設計計算書まで備え付けてのハリキリようで仲々好成績でした。また農業機械部門では原動機から耕作機械まで現物展示を行ないそれらの内部構造、性能仕様書、分解図および部品など詳細に説明されていました。一寸横道にそれてしまいましたが総会は学内で行ない、懇親会は新宿ステーションビル七階レインボー宴集会場にて行ないました。当日は会長であられる学部長大森智堀先生をはじめ、学部校友会長工藤正城氏学部校友会事務局長佐々木実氏ならびに各科校友会会長諸氏多数の御臨席を賜わり、又農業工学科教職員側からは主任教授権平昌司先生農業土木側代表山田伊次郎先生、農業機械側代表阿部弘先生方の御出席もあって錦上花をそえる感がありました。校友諸兄にも導くは

農業工学科分会

されております。

三重県から上京して来た浜数東君をはじめ平本実君（長野県）吉沢弘隆君（静岡県）、福田俊城君（京都府）、梁武常君（豊河原町）など連来の客でした。この他埼玉県千葉県、神奈川県下からも数多く上京して出席して頂いたことは感謝にたえません。

次に会員名簿発行の件ですが、今年度は発行しない予定にしておりましたところ農業工学研究室が発行することとなり過日お送り致しました「一九六五年一月版会員名簿」の発行となったような訳です。事務局では常に会員諸兄の動静について注意し原簿の訂正をしておりますが、住所、勤務先などに変更があり次第至急御通知下さるよう御願い致します。

会員の皆様には御仕事にも刻て、いよいよ活躍されていることと思いますが、続く後輩にいい職場を紹介してやって下さい。校友会の一分会として新たに生まれた農業工学分会も早や四年目を迎えようとしております。先輩諸兄の御指導を仰ぎ分会としてより発展させて行きたいと願っております。末筆ではございますが会員諸兄の益々お多幸御繁栄を祈っております。

（事務局記）

紫友会

隆徳（東海製薬）建坂公雄（高砂香料）の諸氏で四年生全員が地講し盛会であった。今年は不景気のため求人数も減り就職難が予想されるが校友諸様の一層の御援助をお願いしておきます。

一方今年の本学科の入学志願者は昨年に比し激増し、特に地方から必募が目立った。その結果、新入生一百二名の多きを迎えた。これは未だかつてないことである。

大学の海外派遣研究員として浅野助教授が八月にアメリカのコーネル大学に出張される。期間は一年。農芸化学科として始めての例であり、こ本人のみならず、本学科にとっても大いに喜ぶべきことである。海外でのご活躍をお祈りする。

体質改善が今の時代の流行語になっているが先号でも述べた如く、本学部は時代に即応した体勢への切替に苦心している。農芸化学科も新しい学問分野の発展にともない講義課目の新設、拡充を計画している。そのため今後いくらかの教授クラスの補充、助手クラスの増員が行なわれるかも知れない。

研究室単位のOB会がそろそろ活発化し、すでに栄養生理化学（旧農産で、植物栄養のように活動している研究室もあるが今度食品化学（旧食品栄養化学）研究室でも有志の骨折で六月下旬に初会合を開くことになった。また各クラス会の会合も活発で、去る四月、農化一期生の会が開かれ大村教授ら先生方も出席された。

訃報　農産製造一期卒の西野豊氏（別府市浜脇中学教諭）は一月二十九日脳出血のため逝去された。紫友会として御香料をお送りした。謹んで御冥福を祈る。

角笛会

家畜病院が既に取壊され、一号館に連絡して新校舎が建てられる予定です。このように我が獣医学科の各研究室は完備と迄は行かないとしても着々その目的に向って前進しております。研究室・家畜病院も出来ましたのでこの次にはなんとしても実験動物舎を作りたいものと着々計画しております。S・P・F動物が飼育出来るような理想的な動物舎を夢みております。

昭和三十九年度の獣医科卒業生は一五一名で国家試験の合格率も九〇%弱で先づ先づといった所です。一方就職の方は既に一〇〇%でなんとしても、求人に応じきれない始末です。

しかしこういった好景気も数一、二年ではないかと今から案じております。

本年は既に官庁関係からは多数求人がありましたが、民間会社特に乳業関係の会社からは殆んど求人がない状態です。

明年三月卒業見込の学生は約一五〇名です校友諸兄の御支援を切にお願いする次第です。

大学院獣医学研究科が発足して既に十余年になり既に博士課程を終了した方は三名、そして現在五名が在学しております。修士課程を終了した方は三八名、在学者は一一名です。

昭和三十七年十二月制定された新制論文博士の学位授与者は本年度は五名（内校友は山内豊紀（昭和八年卒）氏、杉谷幸男氏、並びに（昭和十七年卒））で現在迄に計八名となりました。

心からお祝い申上げます。

現在獣医学科から本部命令で役職をお持ちの方は木全教授（農獣医学部事務局長）、桑原教授（家畜病院長）・小畑教授（獣医学研究所長）大熊教授（農獣医学部図書館長）・細谷教授（日本大学学生部長・日本大学評議員）です。

先般学部内の主任教授選出にあたっては原則として前記役職の教授は重任しないということで獣医学科は科内会議で常包教授を選出致しました。

常包教授にはこれから二年間獣医学部事務局長、桑原教授（家畜病院長）・小畑教授（獣医学研究所長）大熊教授（農獣医学部図書館長）・細谷教授（日本大学学生部長・日本大学評議員）です。

先般学部内の主任教授選出にあたっては原則として前記役職の教授は重任しないということで獣医学科は科内会議で常包教授を選出致しました。

常包教授にはこれから二年間獣医学部事務局長、桑原教授（家畜病院長）・小畑教授（獣医学研究所長）大熊教授（農獣医学部図書館長）・細谷教授（日本大学学生部長・日本大学評議員）です。

尚佐藤教（昭和三一年卒）・岡野真臣（昭和二八年卒）両講師が夫々助教授に田中茂男（昭和三八年卒）副手が助手に昇進致部君が新に生理学教室の助手に新任されました。今後の御健斗を切に祈ります。

姓なこの際は必らずお知らせ下さい。

○学部祭パーティ

前回の会報で御知らせしました学部祭を利用しての懇親会は予定通り昨年十一月三日本館四階で校友八十余名出席のもとに盛大に開かれました。学部長大森先生、学部校友会長工藤氏を始め多くの来賓諸先生の参会を頂き家族同伴による交歓が行なわれ過去における最も盛大な会合になりました。本年度も恒例通り行なう予定です。毎回申し上げることですが卒業すると職場の関係上なかなか集ることが出来ず諸専業会の運営についての意見の交換も思うにまかせぬ状態なので最も校友の集るこの日に総会を同時に開きたいと考えております。

○住所勤務先の調査について

現在会員の総数は約八百名ですが勤務先や住所の不明の方が相当あります。三十九年十月に一斉調査を行なうための配入用葉書を御送附しましたが御返信ない方が可成りあります。

グループ毎の連絡はお互同志それぞれあるようですが全卒業生の現状の調査は大学以外では出来難いものですし、又社会において色々と連絡しながら助け合って行くためには正確な名簿の作製が是非必要です。住所勤務先などに変更がありましたら必ず学部内諸専業会事務局宛御連絡下さるよう御願いします又友人の住所勤務先等を知りたい方は御問合せて下さい。事務局に台帳が整理してあります。

○研究室の移転

三号新館（従来の新館の続き）が完成したので本年三月に畜産製造学第一研究室（地下一階）畜産製造学第二研究室（地下一階）家畜生理学研究室（三階）家畜繁殖学研究室（三階）が新しい建物に移転しました。その他は従来通りです。この他に現在改修工事中です。

満喜葉会

畜産製造関係　約三〇％
飼料製造・飼養関係　約一〇％
商社関係　約一〇％
県庁等公務員関係　約一五％
添加剤・薬品関係　約一〇％
教育・その他　約五％

ここ二・三年は好景気のため新卒業生の就職はずっと順調でしたが本年度は養鶏業界の不振による飼料業界の伸びなやみ貿易自由化にそなえての乳製品業界の合理化などが原因して各業界とも求人を手控えている現状で従来のような楽観は許されそうにない様子です。担任の梅老助教授を始め各先生方努力しておられまた七月上旬に業界各方面から校友の方に一名宛御来校頂いて四年生にそれぞれの方面の現状、見透し、心構えなどについて御話し頂きましたが更に先輩各位の御援助を御願いします。尚御来校頂いた校友は次の通りでした。

橋　重夫　旧制一期　明治乳業KK
佐藤　三郎　旧制一期　広尾高校
桜田　恭平　旧制一期　東急エビスKK
米沢　昭一　旧制三期　農林省
木村　栄一　旧制四期　動物医薬品検査所
高玉　光昭　旧制四期　朝日放送KK
梶谷　洋一　新制五期　竹岸畜産KK
野沢三知良　新制十一期　全販連
石橋　義勝　新制十二期　コーキン化学KK

○学生募集について

今後の会の発展のためには優秀な後輩をより多く養成する必要があり本年度も一〇四名の新入生を迎え学内でも努力を続けていますが更に校友からもどしどし新入生を送り込んで下さるよう御願いします。

学部祭できまた御会いしましょう。

（文責・佐々木実）

桜咲く四月希望に満ちた新入生を迎えたかと思うまに早や初夏の訪をみました今日この頃大学に於いては講義実験実習等慌しい毎日でございます。校友の皆様には御健在のことと存じます。ここに新ためて流れゆく歳月の意義深きことを校友の皆様と共に考へ一言を綴ることに致します。

入学及就職状況

今四月には農学科に全国より向学心に燃えた六四名が入学して来ました。その大部分は地方出身者であり将来の農学徒として誠に適した人材で吾々としても大いに歓迎すると共に将来を期待したいものであります。又三月には十九期の学生が卒業致しました、就職状況は昨年同様相変らず良好でございました卒業生の諸君には心から祝福申上げます、農学科の内には農学・農工専修が併設されておりましたが昭和三十七年度より専修はなくなり農学科及び農業工学科として出発致しておりますので今春の卒業生が専修としての最後の学生であります。専修としては三ヶ年のみでございましたが卒業生にとっては勿論のこと関係教職員にとりましてもいろいろと感慨深いものがあるとゝ存じます。学科専修何れにせよ時代の波に即応し社会の要求も増している現在益々期待されるゝこと存じます。

扨て農学専修卒業したものの活躍分野をお知らせ致しますと卒業者三一名は次の通りでございます、

自営二名、地方公務員二名、青果市場二名、造園関係一名、一般会社員名、出版会社一名、教員一〇名、海外渡航一名、研究生二名、以上三一名の全員が決定致し現在努力致しております。

農学科分会

農学科現状報告

吾々農学科の直面する問題は現在数多くのこされております。第一に学科内容の充実でございますこれはこの紙面で再三申上げておりますが農業近代化に伴う教育方針、新学課目の編成とが急速に農学の体質改善として進みつゝあります。これには江口主任教授を始めとし全教員が熱考立案し実施すべく進めておりますので遠いことではないと存じます。又教授陣の拡充が勿論要求される今日でありますが兼ねて停年退職されました永井先生には二年間日本大学顧問教授として決定されましたので再び学科生及び専攻生の御指導を頂けることになり吾々としても御同慶に堪へません。第二に研究設備の充実であるが時代の農業は関係各方面で探究されて改善の必然性が要求されながら現在の農学科の設備は残念ながらこれらに比して充実しているとはけっして申上げられません。木造建の教授研究室の改善学生実習、実験室等の増設を大いに望みたいものでございます。第三には研究圃場でございます。現在三〇坪の温室を農学科は利用しているがポット栽培、苗床、その他観賞生産園芸作物等の肥培管理の諸実験は出来ない現状でございます。研究圃場については校友の皆様には数年来いろいろと御協力をお願い致し皆様により積極的に圃場候補地等が検討されて来ましたが今だ吉報までに至っておりません。

以上これら三点がさしあたって農学科に課せられた大きな問題でありますがこれから問題は将来の農学科の発展及び進路に直接左右すべきものであり教育と研究の場として真剣に考へたいものであります。それには吾々も急速に改善すべく努力致しますが校友の一人ひとりが一致した明確なる目標を定めその目的達成のため全力をつくしたいと念願するものであります

校友会には十九期生が送り込まれました。同窓先輩諸君には随所に於いて活躍されて居りますが年代の経過と共に階層も広くなって来ましたので今後一層の親睦を深めることが必要かと存じます。校友の皆様には東京の折にふれ又眼の病に見非大学までお立寄り下されたり又は御活躍ぶりを事務局まで御一報下さるようお待ち申上げます。許される限りこの紙面にて会員相互の親睦を深めるべく校友の近況を掲載致し度いと存じておりますので皆様にはよろしくお願い申上げます。

各科校友会の動き

桜水会も新らたに一〇三名の新入会員が加わり、全会員八百名以上となり、ますますわが桜水会は栄大してきた。

桜水会

▼水産学科の教授陣容は年々充実されてきた。即ち、東京大学より末広晨雄博士が専任教授としてお見えになり、また、本学科卒業後東京大学水産学科で修士課程を終了した広瀬（旧姓木村）一美さんが助手としてみえた。

さらに、東横三、藤田孝男両氏は、助教授に昇格し、金澤和征、望月篤両氏は助手に昇格したので専任教授三名、助教授四名、専任講師一名、助手三名、副手一名となり、主任教授には新らたに川本信之教授が任命された。

▼昭和四十年度の新入学生は非常に多く一五二名になり、桜水会がますます盛発することは間違いのないことである。今後とも学生募集には全会員の御助力をお願いし、わが水産学科の発展に御協力下さることをお願いする次第である。

▼先にお知らせした昭和四十年度桜水会総会および懇親会は六月三日雅叙園観光ホテルで行ない、昭和三十九年度事業報告およびその他、昭和四十年度事業計画およびその他、昭和四十年度事業計画案およびその他が審議された。また本年は役員改選期なので、役員改選も行ない、会長には松尾栄之氏が再選され、副会長には加瀬恒男、出口吉昭両氏が選出された。

桜水会総会において次のように改正されました

第四条、第二項の特別会員は、従来、農経学科の「在学生と教員」となっていたが、これを分離して、学生は準会員（第二項）、現職教員は特別会員（第三項）とし、新しく永久会員（第四項）を設け、これは本会発展に功労のあった教員にして総会で推薦したものであり、初の永久会員に橋川先生が推薦、承認されました。

第九条の役員に関する規定のうち、幹事若干名（原則として卒業期毎に各三名）のカッコ内を（卒業期、地域、職域、在学生毎に選出する）に改める。

第十二条の本会の経費は、入会金及び寄附金により、寄附金は一口百円とし毎年募集することになっておりましたが、一口百円は時代に適ないのでこの部分を削除し寄附金は必要に応じて募集する一に改正されました。

（4）学内の近況

教員組織―三九年度から久木田教授が、拓殖学科へ移りましたが、新しく鈴木教授、山口専任講師を迎え、教授陣の充実につとめております。現在の農経学科の教員組織は次の通りであります。教授四名（根岸、磯辺、蓮池、鈴木辰雄（新任））、助教授二名（来栖、島津）専任講師二名（山口哲夫（新任）、高坂）、副手一名（山口照雄（新任））計九名、他に兼任講師として、橋川渡、青木一己、美土路達雄、山根勤次、高山茂七郎師の五名に出講願っております

①学科名改正を検討中

最近のわが国産業の変化はめざましく、これに伴って大学教育のあり方、社会の要請も大きく変化しております。これにこたえるよう、学科目の改正を検討中であることを、前号でお知らせ致しましたが、今度は科目だけでなく、学科名（例えば食品経済学科）の変更を伴った根本的改正を目下検討中であります。

②研究室体制の確立

建築中であった新校舎の落成に伴い、農経学科の研究室は、本館三階に五室（マーケッテング、産業政策、経営学、協同組合、農経図書資料室）まとまり、図書資料コンピュライター、複写機、タイプ・ライターなど近代的機械機具の充実した研究室で、教員、学生が一体となって、研究、勉学、教育に励んでおります。

③根岸主任教授海外視察旅行から帰る。

欧米諸国の農業事業（とくに食料の流通機構）及び大学教育制度視察のため、三月二十九日羽田を出発、四十六日間の視察旅行を終え、五月十四日無事帰朝致しました。次回農経校友会報に旅行記を寄せていただくことになっておりますので、御期待下さい。

④就職及び入学志願者の状況

三十九年度の卒業生五十八名の就職は、卒業時までに全員決定致しました。主なる就職先は、官庁地方公共団体、農業団体、食品会社などでありますが、とくに農業関連産業部門への就職がのびております。明年三月卒業予定者の就職試験も始まっております。是非後輩のお世話をお願い致します。

入学志願者は約一〇〇名に達し一一回生の子供が入学するようになりました。これだけ農経学科の歴史が深まったことを示すものでありましょう。

最後に会員で最近結婚された方々約三〇名に、記念アルバムを先般発送致しましたが、まだもらっていない方は、事務局まで御連絡下さい、早速お送り申上げます。

尚、先般、会報発送の際、会報作成費としての寄附金をお願い致しましたところ、五月末現在で、約二万円集まりました。まだ送っていない方は、恐縮ですが、事務局宛振替でお送りいただければ幸いです。

（高坂記）

食品工学科

新設食品工学科は本年度で第四年次をむかえました。

学生の総数は六一〇名

内訳は次の通りです。

四年次　二二〇名
三年次　一三六名
二年次　一四六名
一年次　二〇八名

食品工学科は食品工業の発展に寄与するために設立されました。即ち近代工業の基盤にたって急速に発展しつつある食品工業をさらに進展させて世界的水準にまで高めるには、生物化学、分析化学、食品化学などの化学的知識は勿論工業に直結する化学工学、機械工学、電気工学などの工学的知識を基礎として能率の高い生産体制をとらなければならないのです。

このような分野を総合した学問が食品工学です。

この学問は第二次世界大戦後欧米諸国において急速に発展してきました。

しかし、わが国において残念ながら食品工学がまだ十分に発展しておらず、業界では食品工学の進展および、このような学問を習得した人材を待ち望んでおります。

そこで本学科においては、固体食品、流体食品など総合食品の製造を理化学的見地から教育し、化学工学および機械学に強い食品工学の技術者ならびに研究者を養成することを目的としています。

従って食品製造のための食品化学分析化学はもちろん、機械工学、電気工学、化学工学、食品製造工学、機械計測学、廃物処理、熱管理、工場管理、品質管理、食品の保蔵および流通販売にいたるまで系統的に食品工学の各分野を教育研究しています。

ゆえに本学科の卒業生は、食品工学の専門技術者として、工場および製造機械の設計と操作、食品製造各般ならびに食品流通部門において活躍し得ると共に、研究教育行政などの分野にも進出することが出来る人物を養成しています。

教育学科目並びに教育陣の主なるものは次の通りです。

化学工学（八田四郎次、唯野哲男）機械工学（小山清一）電気工学（宮川育郎）機械計測学（野沢典美）食品製造工学（斎藤義威、宣林嘉一）食品化学（露木英男）冷凍工学（宣理信一）缶詰工学（藤巻正生）食品衛生学（松井武夫）食品微生物学（大熊俊一）有機化学（佐藤寿）物理化学（唯野哲男、佐藤寿）分析化学（塩谷勇雄）生物化学（森高次郎）食品工学演習（宣理信一）等です。食品市場論（根岸勉也）応用菌学（浅野茂司）栄養化学（渡辺晋）及び各界の実力者による特別講義等であり又、各科目に附随した実験演習等を広範囲にわたり教育指導しております。

明年三月には皆様の御期待に副う可き第一期生を送り出す様務めて居りますので校友諸氏の、なお一層の御支援御指導鞭撻を御願い申し上げます。